

事業コード	H17-建-継-11		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築(バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(一)稲庭高松線		担当課長名	中山敏夫
箇所名	湯沢市藤倉		担当者名	主幹(兼)班長 水木清博
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

## 1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H19 (5年)		総事業費	19.5億円	国庫補助率	0.55	
事業規模	延長L = 1,000m 幅員(構成)W = 8.5m (1.25-6.0-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、旧稲川町と旧雄勝町方面を最短で結び、国道398号を補完する路線であるとともに、住民の日常生活を支える重要な生活道路である。また、現在事業中の湯沢横手道路へのアクセス道路としての機能も有している。</p> <p>しかし、当該区間は、幅員狭小(車道幅員4.5m)で線形も悪く(最小曲線半径15m)、急坂路(最急勾配14%)と大型車のすれ違いや冬期交通の確保が困難な状況にある。</p> <p>このため、地域の交通の安全と経済・産業活動の活性化を図るため、道路整備を行うものである</p>						
事業目的	地域づくりの支援(市町村合併支援) 冬期末改良区間の解消						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,950,000	1,950,000	0			
	経費内訳	工事費	1,773,000	1,773,000	0		
		用補費	51,000	51,000	0		
		その他	126,000	126,000	0		
	財源内訳	国庫補助	1,072,500	1,072,500	0		
		県債	834,000	834,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源	43,500	43,500	0				
事業内容	調査・設計 改良 舗装	調査・設計 改良 舗装					
事業の進捗状況	用地買収が完了し、H17にトンネル工に着手する予定である。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業 湯沢横手道路事業(須川IC(仮称))						
情勢の変化及び長期継続の理由	H17.3.22に旧湯沢市・稲川町・雄勝町・皆瀬村が合併して、湯沢市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	路線改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	93.5 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	89.1 %					
達成率 b/a	95.3 %		把握の時期	平成17年7月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	現況道路構造が最急勾配14%、最小曲線半径15mの隘路となっており、安全な交通確保のため、早急に整備する必要がある。	10点
緊 急 性	車道幅員が4.5mと狭隘で、冬期交通に支障や危険を伴っている。 市町村合併支援道路としての位置付けもある。	15点
有 効 性	沿線住民の日常生活を支える生活道路として支障となっている急カーブ及び急勾配、狭隘区間の解消により、円滑な交通を確保することができ、湯沢横手道路へのアクセス性の向上等、整備後の有効性は高い。	23点
効 率 性	事業の費用便益比は、1.43であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 1,863百万円 ・総便益の現在価値 2,660百万円 計画日交通量も1,400台となっている。 トンネル工は、総合評価落札方式で発注し、コスト縮減に努める。	20点
熟 度	用地買収が完了しており、H17よりトンネル工に着手することから、事業進捗の熟度は高い。	15点
判 定	ランク ( ) 湯沢横手道路へのアクセス道路であるとともに地域住民の重要な生活道路となっている他、「緊急性」「効率性」が高く、現道の隘路区間の解消のため引き続き事業を実施すべきである。	83点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H17-建-継-11)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (湯沢市藤倉)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数					
	・車道幅員 < 5.5m	3箇所以上	8	8		
	・最小半径 < 100m	2箇所	6			
	・最急勾配 > 5%	1箇所	4			
	・冬期堆雪巾なし	0箇所以上	0			
	計		15			
	道路環境上の欠陥該当項目					
	・現道の混雑度 1.0	5件該当	7	2		
	・現道の旅行速度 30km/h	4件該当	6			
・現道の事故率 50件	3件該当	5				
・通学路指定で歩道なし	2件該当	4				
・重大交通事故が発生	1件該当	2				
計	該当項目なし	0				
緊急性	道路をとりまく環境等					
関連事業の有無						
・県の主要プロジェクト	あり	4	4			
・地域振興プロジェクト						
・ほ場整備等の他事業	なし	0				
市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3			
	位置づけなし	0				
交通量	増加している	3	3			
	増加していない	0				
特有の課題の有無	あり	5	5			
・老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0				
計		15	15			
有効性	道路の位置づけ					
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	0		
		該当しない	0			
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7		
		該当しない	0			
	地域防災計画上重要な道路	該当する	7	7		
	該当しない	0				
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9			
	低下傾向	6				
	必要性が低い	3				
計		30	23			
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)					
	1.0以上	5	5			
	0.5以上~1.0未満	3				
	0.5未満	0				
	計画交通量					
	1,000台/日以上	5	5			
	500台/日以上~1,000台日/未満	4				
	300台/日以上~500台日/未満	3				
	300台/日未満	0				
コスト縮減	あり	5	5			
	なし	0				
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅		
	既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	3				
計		20	20			
熟度	事業の進捗進捗状況					
	事業の進捗(事業費)					
	8割以上完了	10	5			
	5割以上完了	8				
	1割以上完了	5				
	1割未満	2				
	計					
	用地買収の進捗(面積)					
	8割以上完了	10	10			
	5割以上完了	8				
1割以上完了	5					
1割未満	2					
未着手	0					
計		20	15			
合計			100	83		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		